



と
捕る

と
採る



と
撮る

共同企画展

捕る・採る・撮る

山麓の 縄文食

2020年

7月7日(火)→11月23日(月)

○八ヶ岳美術館 [原村歴史民俗資料館]

○北杜市考古資料館

○富士見町井戸尻考古館



八ヶ岳美術館 [原村歴史民俗資料館]

住所 〒391-0115
 長野県諏訪郡原村 17217-1611

TEL 0266-74-2701

開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで)

休館日 年末年始、臨時休館を除き年中無休

観覧料 大人 510円、
 小中学生 250円 (団体割引あり)

諏訪6市町村の小中学生は
 図書カード・学生証の提示により無料

URL <https://yatsubi.com/index.php>



北杜市考古資料館

住所 〒409-1502
 山梨県北杜市大泉町谷戸 2414

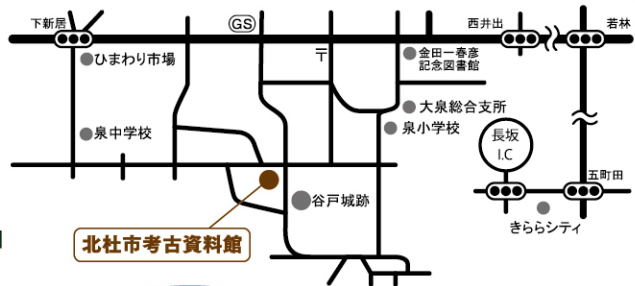
TEL 0551-20-5505

開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで)

休館日 火・水曜日 (祝日の場合は木曜日)、祝日の翌日
 (日曜日または祝日を除く)、年末年始

観覧料 大人 210円、小中学生100円 (団体割引あり)

URL <https://hokuto-maibun.com/>



富士見町井戸尻考古館

住所 〒399-0101
 長野県諏訪郡富士見町境 7053

TEL 0266-64-2044

開館時間 9:00~17:00

休館日 月曜日 (祝日を除く)、祝日の翌日
 (日曜日または祝日を除く)、年末年始

観覧料 大人 300円、小中学生150円 (団体割引あり)

URL <https://userweb.alles.or.jp/fujimi/idojiri.html>



八ヶ岳西南麓に花開いた縄文文化。

その中から各館ごとにテーマを決めてご紹介します。

今回は縄文時代の「食」にスポットを当て、各館独自の切り口で縄文時代の生活に迫ります。

“捕る”—縄文の狩猟と祈り—

八ヶ岳美術館（原村歴史民俗資料館）

寒冷な気候で大型動物を狩った旧石器時代から、温暖な気候になり、森は落葉広葉樹に覆われていた縄文時代へ。八ヶ岳山麓に暮らした縄文の人々の生活は、木の実や山菜を採集し、川では魚を捕り、イノシシやシカ、小動物を狩る、豊かな山の恵みを享受するものへと変化します。今回は八ヶ岳の麓に暮らした縄文の人々の“食”文化、山麓の「捕る」をテーマに、石器を中心とした狩猟具やイノシシなど動物の模様が付いた土器に焦点を当てて紹介します。環境の変化とともに大きく変化した狩猟と道具、人々の“食”をめぐる生活の一端をご紹介します。併せて、大石遺跡で発見された炭化種子塊も展示します。



▲黒曜石の石鏃



▲縄文クッキー

森とともに生きた縄文人

北杜市考古資料館

海岸からも遠く大河川などもなく水産資源に乏しい八ヶ岳山麓の縄文人たちは、周囲の森で堅果類、球根類、根茎類などを採集し、植物質食料を中心とした生活をしてきたと考えられます。八ヶ岳西南麓の遺跡から出土した堅果類の炭化種実を調べると、前期のころはコナラが主に利用され、中期ではクリやクルミ類が好まれるようになり、後期になるとトチノミが利用されるようになったようです。この地域では、堅果類を加工して作られたいわゆる「縄文クッキー」と呼ばれるものも見つかっています。アク抜きや製粉した堅果類からとったデンプンを主食として利用していたのでしょう。近年、土器などに残る種実圧痕の研究が進展し、八ヶ岳山麓の縄文人たちがツルマメ（ダイズの原種）やヤブツルアズキ（アズキの原種）といったマメ科植物の利用を早くからはじめていたことが分かっています。中期には種子が大型化することから野生種の利用だけでなく、栽培にまで発展させていた可能性があります。



▲土器から発見された種子



縄文人の“とる”ころ

富士見町井戸尻考古館

獣を狩り、植物を採って生活をしてきたと考えられていた縄文時代に、農耕が存在していた可能性が井戸尻遺跡群の発掘調査によって提起され、後に日本の考古学界に「縄文農耕論」というひとつの大きなテーマを投げかけました。われわれは食べることなしに生きてはいけません。食べ物を食べるという事は単に栄養を摂取する行為ではなく、何かの“命”を頂くことです。井戸尻考古館では、縄文人が何を栽培してどのように食べたのかだけでなく、何を思って畑を耕し、何を願って生活していたのか、彼らが遺した縄文土器や石器から、当時の食にまつわる精神世界や哲学についても迫ります。



▲石臼丁でアワの収穫

関連イベント

とる！みる！泊まる！

縄文バスツアー

日程：10月3日(土)～4日(日)

出発場所：八王子駅南口

参加費：21,000円(1泊4食付き)

お申込み：北杜市郷土資料館

お問合せ TEL. 0551-32-6498

1日目

- 8:30 八王子駅集合
- 11:30 小淵沢インター着 昼食
- 12:30 井戸尻考古館 見学・収穫体験
- 16:00 八ヶ岳美術館 見学
- 17:00 宿泊施設にて懇談会

2日目

- 8:00 宿泊施設発
- 9:00 北杜市考古資料館 見学
- 10:30 梅之木遺跡 見学
縄文食の試食・竪穴住居作り体験
- 18:00 八王子駅着・解散

※新型コロナウイルスの感染状況などによっては、中止になる場合があります。

山麓の縄文食スタンプラリー

各館にあるスタンプを3つ集めたら、この用紙を受付に持ってきてね！それぞれの館で缶バッジがもらえるよ。

スタンプを集めて、オリジナル缶バッジをもらおう！

去年はこんなものがありました。

今年は何んなものがあるのかはお楽しみ！



八ヶ岳美術館（原村歴史民俗資料館）

北杜市考古資料館

富士見町井戸尻考古館

八ヶ岳西南麓に花開いた縄文文化。

その中から各館ごとにテーマを決めてご紹介します。

今回は縄文時代の「食」にスポットを当て、各館独自の切り口で縄文時代の生活に迫ります。

“捕る”—縄文の狩猟と祈り—

八ヶ岳美術館（原村歴史民俗資料館）

寒冷な気候で大型動物を狩った旧石器時代から、温暖な気候になり、森は落葉広葉樹に覆われていた縄文時代へ。八ヶ岳山麓に暮らした縄文の人々の生活は、木の実や山菜を採集し、川では魚を捕り、イノシシやシカ、小動物を狩る、豊かな山の恵みを楽しむものへと変化します。今回は八ヶ岳の麓に暮らした縄文の人々の“食”文化、山麓の「捕る」をテーマに、石器を中心とした狩猟具やイノシシなど動物の模様が付いた土器に焦点を当てて紹介します。環境の変化とともに大きく変化した狩猟と道具、人々の“食”をめぐる生活の一端をご紹介します。併せて、大石遺跡で発見された炭化種子塊も展示します。



▲黒曜石の石鏃



森とともに生きた縄文人

北杜市考古資料館

海岸からも遠く大川などもなく水産資源に乏しい八ヶ岳山麓の縄文人たちは、周囲の森で堅果類、球根類、根茎類などを採集し、植物質食料を中心とした生活をしてきたと考えられます。八ヶ岳西南麓の遺跡から出土した堅果類の炭化種実を調べると、前期のころはコナラが主に利用され、中期ではクリやクルミ類が好まれるようになり、後期になるとトチノミが利用されるようになったようです。この地域では、堅果類を加工して作られたいわゆる「縄文クッキー」と呼ばれるものも見つかっています。アク抜きや製粉した堅果類からとったデンプンを主食として利用していたのでしょう。近年、土器などに残る種実圧痕の研究が進展し、八ヶ岳山麓の縄文人たちがツルマメ（ダイズの原種）やヤブツルアズキ（アズキの原種）といったマメ科植物の利用を早くからはじめたことが分かってきています。中期には種子が大型化することから野生種の利用だけでなく、栽培にまで発展させていた可能性があります。



▲縄文クッキー



▲土器から発見された種子



縄文人の “とる”ところ

富士見町井戸尻考古館

獣を狩り、植物を採って生活をしてきたと考えられていた縄文時代に、農耕が存在していた可能性が井戸尻遺跡群の発掘調査によって提起され、後に日本の考古学界に「縄文農耕論」というひとつの大きなテーマを投げかけました。われわれは食べることをなしに生きてはいけません。食べ物を食べるという事は単に栄養を摂取する行為ではなく、何かの“命”を頂くことです。井戸尻考古館では、縄文人が何を栽培してどのように食べたのかだけでなく、何を思って畑を耕し、何を願って生活していたのか、彼らが遺した縄文土器や石器から、当時の食にまつわる精神世界や哲学についても迫ります。



▲石庖丁でアワの収穫

関連
イベント

とる！みる！泊まる！

縄文 バスツアー

学芸員とともに3館と2つの国史跡を巡る
1泊2日のバスツアーです。
収穫体験や縄文食の試食もあります。
皆様のご参加をお待ちしております。

日 程：10月3日(土)～4日(日)

出発場所：八王子駅南口

参加費：21,000円(1泊4食付き)

お申込み：北杜市郷土資料館

お問合せ TEL. 0551-32-6498

1日目

- 8:30 八王子駅集合
- 11:30 小淵沢インター着 昼食
- 12:30 井戸尻考古館 見学・収穫体験
- 16:00 八ヶ岳美術館 見学
- 17:00 宿泊施設にて懇談会

2日目

- 8:00 宿泊施設発
- 9:00 北杜市考古資料館 見学
- 10:30 梅之木遺跡 見学
縄文食の試食・竪穴住居作り体験
- 18:00 八王子駅着・解散

※新型コロナウイルスの感染状況などによっては、中止になる場合があります。

山麓の縄文食 スタンプラリー

各館にあるスタンプを3つ集めたら、
この用紙を受付に持って来てね！
それぞれの館で缶バッジがもらえるよ。

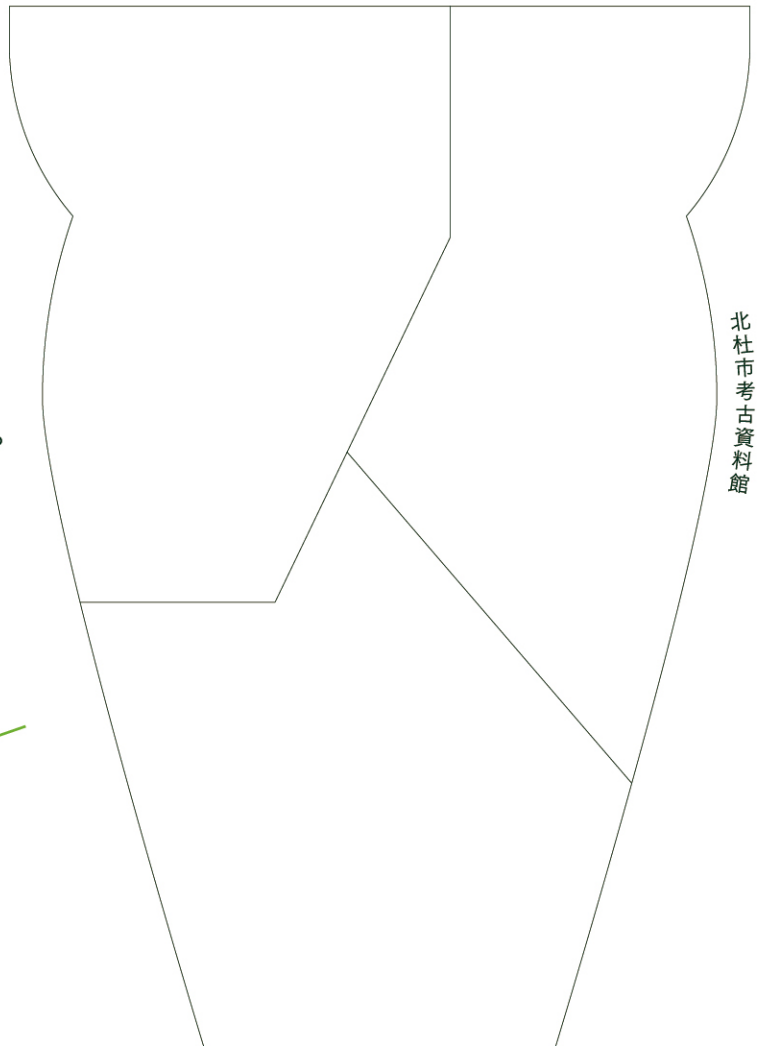
スタンプを集めて、
オリジナル缶バッジを
もらおう！



— 去年はこんなものがありました。 —

— 今年はどんなものがあるのかはお楽しみ！ —

八ヶ岳美術館（原村歴史民俗資料館）



北杜市考古資料館

富士見町井戸尻考古館